

日本靴連盟総会開催

令和元年六月十八日、日本靴連盟第63回通常総会が、西村記念ホールで開催された。

司会の栗原監事より出席者数について（出席者23名、委任状7名含む）規約第11条により総会成立の報告の後、藤原副会長より「先日の靴の記念日も盛大に催すことが出来ました。本総会も皆様のご協力をお願い致します」と開会。山田会長は「本連盟を末永く存続していくためにも、皆様のご協力をお願いし、積極的なご意見を頂ければ幸いです」と挨拶。

第一号議案

平成30年度事業報告及び収支決算報告について
事務局の田中氏より資料の

説明が行われ、続いて山田議長より石鳥、栗原監事と共に監査を行ったと報告がなされ、一号議案は承認された。

第二号議案

役員改選について

議長より、本年度は役員改選期であり、次期会長は日本靴卸団体連合会の笠井庄治氏に、理事、監事については、各団体の推薦によるものと、役員候補名簿を提示し、事務局より補足説明を行い、議場に諮り異議なく承認された。

笠井新会長は「革靴輸入TQ制度の前年比が102.7%と伸びております。はきもの統計は7億足を超えています。一方で当業界は大変厳しい

一般社団法人
東靴協会
千代田区鍛冶町1-6-17
〒101-0044 ☎(3252) 5656
(8月号)

シューフィッターの皆様へ
住所・勤務先等変更が生じた時は必ず協会までご連絡をお願いします

環境の中にありますが、靴の記念日に経産省の杉浦課長が述べられたように、世界は自由貿易に向かっていきます。メイドインジャパンを積極的に、着実に進めていければと考えております。皆様のご協力を賜り、1期2年、よろしくお願い致します」と挨拶を行った。

第三号議案

令和元年度事業計画・収支予算案について

事務局の田中氏より資料の説明がなされた。議場に諮り全員異議なく承認された。

第四号議案

その他

笠井議長は議事審議、連絡すべての終了を宣言し退席した。

続いて岩崎副会長が次のように挨拶した。「自由貿易は止められない。今までにない新しい価値を生み出しながらマーケットを構築して行くことが必要。皮革産業連合会に

も資料が用意してあるので、活用していただきたい。
商品の「ストーリー」をどのように発信するのか、が今まで以上に重要になる。

情報は「マス」より「個」、メーカーだとか、卸だとか考えず、1足ずつの売り上げが業界内を回っている。連携の議論が足りない。

お客様にとつて、プラスかマイナスかだけを考えないと前へ進めない。どのようにリピーターになつていただくかが一番重要だろうと思う。

続いて山口副会長が「皆様のご協力で議事を迅速かつ円滑に進めることが出来ました」とお礼と共に、閉会の宣言を行い、総会は無事に終了した。

東靴生命共済会及び 特別会員制度について

東靴生命共済会は昭和41年の制度発足以来、会員の皆様の福利厚生の一助となってきました。しかし、近年の新規加入者の減少と、満期による自然減で加入者の減少が続いております。

かねてよりご連絡しております通り、東靴生命共済団体定期保険は令和2年4月1日

時点の加入者数が100人に満たないときは更新不可となり、その後の保障はありません。

6月30日現在の加入者数は105人、令和2年3月31日で満期の方は9人となっております。今後、加入者が増加しない場合は更新不可となります。（令和2年3月31日を待たずに100人未満となった時は、3月31日までは保障があります）

この団体定期保険が満期となった方に特別会員制度がありますが、令和元年6月13日の東靴協会定時総会において、団体定期保険の更新不可と同時に廃止されることが決議されました。（とうくつ新聞7月号参照）

団体定期保険及び特別会員制度が廃止となった場合には、お預りしている配当積立金を所屬事業所を通してお返しいたします。（決算の関係上、6月ごろとなります）すぐに脱退を希望する場合は、ごさいません。

ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。



世界の靴・2016統計



F W誌7月号に、ポルトガルの靴メーカー団体APICAPS(アピカプス)が2016年に集計したデータが左記のように掲載された。

○中国

世界トップの靴生産量で、世界の57%が中国で生産されている。輸出足数もトップで67%を占める。輸入足数は29位。消費量もトップで人口一人あたりの消費足数は2.8足。主要輸出国はアメリカ、イギリス、日本、ドイツ、ロシア。

トップのアメリカが足数で19%のシェア。中国からの輸入が圧倒的なのは日本だが、そのシェアは5%だ。

○インド

生産足数は中国に次いで第2位、消費足数はアメリカに次ぎ第3位。

輸出規模は第6位で主要輸出国はアメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア。輸出品の51%が革靴で、ほかの輸出上位国と比べての特

徴だ。

主要輸入国は中国、ネパール、ベトナム、インドネシア、バングラデシュとアジア諸国。

○ベトナム

中国の主要輸入国であるベトナムの生産足数は第3位。輸出は第2位。主要輸出国はアメリカ、中国、ドイツ、ベルギー、日本で、アメリカが36%のシェアを占め、シェア6%の日本へは、5800万足を輸出している。

主要輸入国は中国、タイ、シンガポール、マレーシア、香港で、中国が94%を占めており、年間5700万足を輸入している。

○インドネシア

生産量は第4位、輸出量は3位、消費量は4位だが、輸入量は73位と少ない。

主要輸出国はアメリカ、中国、ベルギー、ドイツ、日本。アメリカへの輸出は32%のシェア。

輸出品目シェアでは革靴が30%、日本への輸出は1900万足ある。

主要輸入国は中国、ベトナム、インドネシア、イタリア、マレーシアでイタリアからは20万足輸入している。

○ブラジル

生産国5位のブラジルはア

ジア以外ではトップ。消費量も5位で一人当たり4.1足となる。輸出は13位で主要輸出国はパラグアイ、アメリカ、アルゼンチン、フランス、ボリビア。アジア各国の輸出国はいずれもアメリカがトップだが、パラグアイが足数ではトップだ。

主要輸入国はベトナム、中国、インドネシア、タイ、イタリア。アジアからの輸入が主力でアジア4か国で9割を超える。

○トルコ

中東の有力生産国で、生産量6位、輸出量で8位になる。輸入は60位と低い。

主要輸出国はイラク、南アフリカ、イラン、ドイツ、ロシアで、アジアへの輸出は少ない。

主要輸入国は中国、ベトナム、インドネシア、イタリア、スペインと輸入はアジアからが多い。近年ベトナムが増え中国が減っている。

○バングラデシュ

LDC(後発開発途上国)で、生産量は7位。輸出は22位、輸入は71位、消費量は12位。

主要輸出国はスペイン、ドイツ、アメリカ、オランダ、日本。金額では、ドイツがトップ、日本は3位に入る。輸出品の

トップは革靴で42%を占める。主要輸入国は中国、インド、タイ、シンガポール、香港で、中国、インドが伸びており、革以外の製品が97%を占めている。

○メキシコ

生産量は9位、輸出量は28位、輸入量は31位、消費量は15位となる。

主要輸出国はアメリカ、グアテマラ、カナダ、日本、コスタリカ。日本を除きアメリカ大陸が主要輸出国となる、日本への輸出は20万足と大きい。

主要輸入国は中国、ベトナム、インドネシア、スペイン、イタリア。革靴の比率は輸出が37%に対し、輸入は10%に留まっている。

○タイ

靴生産量2億足の規模は第10位で、同国の主力産業となっている。輸出量は14位、輸入量は36位、消費量は26位。

主要輸出国はミャンマー、アラブ首長国連邦、アメリカ、イギリス、デンマーク。金額ではアメリカがトップ。革靴の輸出比率は13%に留まる。

主要輸入国は中国、ベトナム、インドネシア、マレーシア、イタリアで、アジア以外ではイタリアからの輸入が多く、金額ではイタリアが3位の規模となる。

国別	中国		インド		ベトナム		インドネシア		ブラジル		トルコ		バングラデシュ		パキスタン		メキシコ		タイ	
	足数 (百万足)	世界 順位	足数 (百万足)	世界 順位	足数 (百万足)	世界 順位	足数 (百万足)	世界 順位	足数 (百万足)	世界 順位	足数 (百万足)	世界 順位	足数 (百万足)	世界 順位	足数 (百万足)	世界 順位	足数 (百万足)	世界 順位	足数 (百万足)	世界 順位
生産量	13,100	1位	2,257	2位	1,185	3位	1,110	4位	954	5位	500	6位	399	7位	378	8位	254	9位	200	10位
輸出量	9,313	1位	236	6位	1,021	2位	259	3位	126	13位	213	8位	48	22位	11	41位	25	28位	120	14位
輸入量	84	29位	229	13位	61	39位	24	73位	23	75位	35	60位	24	71位	20	79位	82	31位	72	36位
消費量	3,871	1位	2,250	3位	225	20位	875	4位	851	5位	322	13位	375	12位	387	11位	311	15位	152	26位
消費足数(1人)	2.8足		1.7足		2.7足		3.4足		4.1足		4.0足		2.3足		2.0足		2.5足		2.2足	

靴専門店・大手三社の 第1四半期の決算

ABCマート、チヨダ、ジーフットの大手三社は7月に第1四半期（3月～5月）の決算を発表した。

ABCマート

スポーツシューズの好調と海外販売の伸長で増収増益

7月4日に発表した第1四半期連結業績は、売上高が前年同期比6.6%増の746億4800万円、営業・経常利益も増益で、四半期純利益は同2.4%増の98億1100万円となった。品目別売上高では、全体の約6.2%を占めるスポーツが同7.0%増となったほか、レザーカジュアル（同8.5%増）、キッズ（同15.5%）が前年実績を上回った。

国内売上高は、同2.6%増の547億5000万円、営業利益は同0.8%増の129億2600万円。スポーツシューズやファッションスニーカーの販売に注力したほか、ここ数年需要が高まっているキッズシューズの取り扱いを拡大した。

出店状況は、商業施設やショッピングセンターを中心に23店舗を出店。同期末にお

ける国内店舗数は1006店舗。

国内店舗の売上高増収率は、全店で前年同期比3.0%増、既存店で1.7%増。

海外の売上高は同19.2%増の201億6800万円、営業利益は同46.4%の13億7600万円。

店舗展開については韓国に12店舗、台湾に1店舗、米国に1店舗の計14店舗を新規出店。3月30日現在の海外店舗数は304店舗となった。

チヨダ

子ども靴好調
PB展開強化も

在庫下げ処分で利益率低下

7月12日に発表した第1四半期連結業績は、売上高が前年同期比3.2%減の315億2900万円、営業利益と経常利益はともに減益となった。

靴事業の売上高は同3.5%減の245億6100万円、営業利益は同25.2%減の15億7700万円。販売に注力した子ども靴が好調に推移した

ほか、プライベートブランド「ハイドロテック」史上最軽量のビジネスシューズを発表するなど、軽量や屈曲性など歩きやすさにこだわった商品展開を強化。合わせて滞留在庫の値下げ処分も積極的に実施した。

しかしながら、客単価が伸び悩んだほか、積極的な在庫処分により売上高総利益率も低下した。

靴事業の出退店は、3店舗を出店、9店舗を閉店、期末の店舗数は1041店舗となる。

ジーフット

在庫処分増と
スポーツ靴増収も
婦人・紳士靴の減収響く

7月5日に発表した第1四半期連結業績は、売上高が前年同期比4.3%減の260億4300万円、営業利益、経常利益、四半期純利益はいずれも減益となった。

スポーツ・カジュアルを基軸とした品揃えの充実と売場改革により客数の回復と売り上げ確保に努め、商品在庫の適正化により在庫効率の向上と原価率の改善をはかった。

これらによりスポーツ靴の売上高は同1.8%増となり、商品在庫は前連結会計年度末比2億7100万円削減した。

しかしながら、婦人靴（同10.8%減）および紳士靴（同11.6%減）の減収をスポーツ靴の増収でカバーするまでには至らなかった。売上げ総利益率については、在庫処分の増加により同2.5ポイント減の45.0%となった。

出退店については、7店舗を出店、6店舗を閉店。同期末の店舗数は935店舗（国内895店・海外40店舗）。

2019年第1期四半期（単位：100万円、%）

	ABCマート	チヨダ	ジーフット
売上高	74,648	31,529	26,043
前年比(%)	106.6	96.8	95.7
営業利益	14,315	1,474	629
前年比(%)	103.9	71.8	51.9
経常利益	14,502	1,552	615
前年比(%)	102.1	71.8	41.0
四半期純利益	9,811	717	261
前年比(%)	102.4	40.9	37.0

★ワークマンやGUの 千円台の靴が人気

ワークマンやGUの靴が安くてかわいいと人気上昇中。TV番組にも取り上げられ、SNSで拡散し、品薄状態が続いている。

ワークマンの人気靴は厨房用で滑らないシンブルスリッポンのファイングリップ

シューズ1980円。パラディウム風のビニール製で防水ワークブーツ1500円。コンバース風キャンバススニーカーは迷彩柄もあつて980円。雨にも履けるガーデニングブーツ1500円など。

ワークマンは店名通りに作業用の服やグッズを長年販売し、丈夫で、安価には定評がある。昨秋、アウトドアやスポーツ、レインウェアの業態としておしゃれな「ワークマンプラス」を展開し始め、すでに21店舗となった。

既存店にもアウトドアやスポーツ、女性用を増やし、色柄も工夫し、展開している。

GUは当初のユニクロ劣化版？から、低価格な流行品へうまく変身し、ガウチョパンツ流行時には300万枚も売った。今夏のヒットは渋谷や原宿でも多く見られる厚底スポーツサンダル。GUでは5色、2490円で展開。エスパドリユー、1490円はレースやストライプで展開、完売した。

一方、外国系低価格ファッションは、フォーエバー21もH&Mも縮小。富裕層も使うユニクロとの品質の差が大き過ぎた。世界一のZARAは残りそうだ。

（FW7月号より）

理事会・支部連絡会

だより

令和元年七月二十三日(火)

午後一時、西村記念ホール

出席者21名

松戸副会長の司会で開会。始めに会長より「今年は悪天候が続く異常気象の中、ご苦労されていることと存じます。百貨店を始め売り上げが低迷している中、SC関係は比較的順調との情報もあります。老後2000万円問題や、消費増税などサイフの紐が固くなっていることも低迷の要因になっていると感じます。先日、NHKTVで「288パンプス」が取り上げられ、小堤氏の店舗も紹介され、履き良いパンプスの必要性が報じられていました。婦人靴の追い風になると良いのですが、また、ある信用金庫から赤字企業が増えてきているとの情報があります。さらに日韓問題の影響で韓国からの観光客が激減し売り上げにも影響してきています。クラークスの展示会がありました。生産国はベトナムとインドが多く生産国を始めグローバル化も変化しています。その中、小ロットで生産してくれるのが、イタリア・スペイン等ヨー

ロッパです。本日から3日間、恵比寿でスペインの展示会も開催されています。慎重な経営は必要ですが、色々取り組んで実績を上げてください」と挨拶。その後、議事に移った。

一、夏期レクリエーションについて

8月20日に開催される表記バス旅行は現在41名の参加申し込みがあり、締め切りしました、と松戸氏より報告した。

二、中堅社員研修について

矢代理事より8月27日午後1時より銀座ヨシノヤ本部で開催する中堅社員研修会は現在8名の申し込みがある。1店舗複数の参加も受け付けております。さらに多くの方に参加して頂きたいと要請した。

三、「靴まつり」実施内容について

田中監事より9月1日より行われる表記の内容について例年通りの方法で行うと説明、ポスター他印刷物は次回8月の理事会でお配りする、と報告した。

四、FHAシューフィッター養成講座(東京)について

矢代理事より次回は10月9日(11日)に行われます。希望者は早めに申し込みよう要請をした。

新規認定者については、「橋文」様から1名の方が認定されています、と報告した。

五、その他

松戸副会長より今後のスケジュール(催事・広報委員・会事務局の夏期休暇、理事会の通知。田中早映子事務局員より佐宗専務理事が体調不良で入院した。不在中は矢代理事が代行として対応する。緊急連絡先は会長、または矢代理事が受ける、と報告した。

東京商工会議所 L O B O 調査、7月集計結果

東京商工会議所では、毎月 L O B O (早期景気観測) を発表している。

○先月(7月)の動向

業況は、一部に弱さがみられる。先行きは、不透明感強く、ほぼ横ばいの動き、とした。全産業の業況DI(「好転」から「悪化」を引いた数値)は、▲20.2(前月比▲1.9ポイント)となった。

☆都市部の民間工事を中心とする建設業の底堅い動きや堅調なインバウンド需要が下支えしたものの、根強い消費者の節約志向に加え、気温の低い日が続く、夏物商材の需要が低迷した小売業や、例年より長い梅雨の影響で客足が減

少した飲食・宿泊業を中心とするサービス業の業況感が悪化した。

☆先行き見通しDI(8月10月)のDIは▲20.1(今月比+0.1ポイント)となった。

個人消費の拡大やインバウンドを含む夏の観光需要拡大への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦や世界経済の動向、消費増税の影響など不透明感が増す中、業況感はほぼ横ばいで推移する見通し。

☆小売業の動向
インバウンドの需要は堅調なもの、根強い消費者の節約志向に加え、梅雨寒が続いた影響により衣料品を中心とした夏物商材に需要が低迷した。

現段階では消費増税の駆け込み需要は見られないが、梅雨明け後の消費動向に期待。

東京都中小企業景況調査(6月)
業況：弱含みで推移
見通し：慎重な見方強まる

卸売業			業況			
対象数	回答数	回答率	6月	今後3か月間見通し(当月比)		
875	361	41.3%		悪い	良い	
				-100	0	100
衣料・身の回り品	1. 男子服					
	2. 婦人・子供服					
	3. 靴・履物					
	4. かばん・袋物					
	5. 装身具・身の回り品					

小売業			業況			
対象数	回答数	回答率	6月	今後3か月間見通し(当月比)		
875	300	34.3%		悪い	良い	
				-100	0	100
衣料・身の回り品	1. 呉服・服地・寝具					
	2. 男子服					
	3. 婦人服					
	4. 子供服					
	5. 靴・履物					
	6. かばん・袋物					
	7. 雑貨・身の回り品					
	8. 時計・眼鏡					
	9. ジュエリー製品					

社名		5月	6月	7月
チヨダ	全社売上	2.0	0.6	-7.8
	客数	3.0	-1.3	-10.6
	客単価	-0.9	1.9	3.1
	店舗数	1041	1043	1043
ABCマート	全社売上	3.9	5.5	-4.9
	客数	1.3	3.6	-9.9
	客単価	2.6	1.8	5.6
	店舗数	1006	1008	1005
Gフット	全社売上	-1.2	0.3	-11.3
	既存店	-1.0	0.7	-11.1
	店舗数	886	887	888

記録的日照時間不足、梅雨明けの遅れにより、レイン関連は好調だったが、夏物商品の落ち込みが大きい。(チヨダ)
梅雨明けの関係でサンダルを中心とした夏物が伸び悩んだ。キャンバス素材のスニーカーが好調だった。(ABCマート)
気温の低い日が多くサンダルを中心に季節商品が大幅に昨対を下回った。又、日曜日も昨年より一日少ない影響もあった。(ジーフット)

靴専門店・大手三社の直近3か月売上推移